２０２４年度（令和６年度）
日本大学大学院芸術学研究科
入学試験要項

（博士前期課程　一般入学試験）
（博士後期課程　一般・社会人入学試験）

日本大学大学院芸術学研究科
〒176-8525　東京都練馬区旭丘2－42－1
TEL：03-5995-8202＜教務課大学院係＞
E-mail：art.graduateschool@nihon-u.ac.jp

出願から入学までの流れ

① 出願資格及び出願期間･事前連絡期間を確認する

↓

② 各教授の研究領域･業績等確認の上，指導希望教授を決定する

↓

③ 所定の期間内に事前連絡を「事前連絡･相談フォーム」より行う
（事前連絡において，指導教授より出願が認められた場合のみ出願可能となります）

↓

④ 出願書類の準備及び入学検定料を納入する

↓

⑤ 出願書類を郵送する（芸術学研究科教務課大学院係へ郵送）

↓

⑥ 受験票の取得（芸術学研究科より郵送にて出願者に送付）

↓

⑦ 1次試験の合格発表

↓

⑧ 2次試験の受験（1次試験合格者のみ）

↓

⑨ 2次試験の合格発表

↓

⑩ 入学手続

↓

⑪ 入学（2024年4月入学）

目　次

Ⅰ　日本大学大学院芸術学研究科の教育方針・・・

Ⅰ　日本大学大学院芸術学研究科の教育方針

◆　大学院芸術学研究科の紹介

大学院芸術学研究科は，昭和２６年に設置された文芸学専攻を基に，平成５年に映像芸術専攻，造形芸術専攻，音楽芸術専攻，舞台芸術専攻の各専攻を増設し，芸術学部の全ての領域を網羅する総合芸術系大学院となりました。また，平成７年には博士後期課程芸術専攻を設置し，令和４年度修了時点で１，９８２名の者に修士の学位を，１３０名（課程修了による者１１５名，論文提出による者１５名）の者に博士の学位を授与しており，高度な芸術研究の場として広く社会からも注目を集めています。

本研究科の特徴は，より高度に複雑にクロスオーバーする芸術研究環境の中で，単独の分野の研究を深めると同時に隣接領域の研究も学際的課題として取り扱うカリキュラム構成にあります。また，芸術の理論と高度な表現力を涵養することを主眼にし，豊かな学識と表現能力を持った芸術研究者・表現者の育成を大きな目標としています。

◆　教育研究上の目的

２１世紀の芸術は、すべての領域における融合を必然としています。芸術の現状を視野に置きながら、芸術の理論と歴史の研究と想像力を養い、併せて専門及び学際的課題を含む応用領域の研究を行っています。専門分野の更なる研究と創作等を行うとともに、隣接領域の芸術と触れ合い、広い視野をもって芸術を理解することで、幅広い知識と技術を持った、次代の芸術をリードする人材を養成しています。

◆　入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

博士前期課程

本学の教育理念である「自主創造」に基づき，芸術の歴史と理論を学び，多様化する高度な表現を論理的かつ批判的に思考し，新たな芸術の研究・表現を創造できる人を求めます。

博士後期課程（芸術専攻）

本学の教育理念である「自主創造」に基づき，芸術の豊かな知識・教養と倫理観を持ち，自ら研究課題を発見・解決する方法を思考し，自立した研究・創作活動に挑戦し，次代の芸術をリードする人を求めます。

選考について

日本大学大学院芸術学研究科では，創造性を評価します。論文（小論文）試験では論理性と発想力を審査します。実技・作品審査では技術と表現力を審査します。外国語試験では各専攻において文献・論文研究に必要となる読解力を審査します。

口述試験では各専攻分野で芸術を学ぶための意欲，適性及び人間性を審査します。

◆　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本大学大学院芸術学研究科では，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」能力に基づく，芸術・文化全般に対して国際的視野を備え，本研究科の修了要件を満たした者に，学位を授与する。

博士前期課程では，文芸学，映像芸術，造形芸術，音楽芸術，舞台芸術各専攻の修了要件を満たし，各研究分野における理論と歴史を専門的に探究する力を持ち，問題を自ら解決するために，芸術の研究と表現を磨き，その能力を社会に生かす姿勢を持つことが，課程修了の基準である。

博士後期課程では，芸術の研究者，創作者として自立するための高度な専門的知識と能力を身につけ，

独力で新たな研究，創作の問題を見出し，解決させ，社会に貢献できるようになることが，課程修了の基準である。

◆　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

日本大学大学院芸術学研究科では，日本大学教育憲章に基づき，学位授与の方針に沿って教育課程を編成し実施する。

博士前期課程では，文芸学，映像芸術，造形芸術，音楽芸術，舞台芸術の５つの専攻を置き，21 世紀の芸術が担う社会的先導性を身につけることを目標とする。基礎的素養と各専攻の専門知識を培うと同時に，専攻の壁を越えて学生の知的関心に応じるべく，相互に関連する広範囲の科目を配置し，修士論文・作品の研究を個別に指導する。憲章の８つの能力を養成するとともに，芸術分野の多岐にわたる授業科目を体系化し，講義・演習・実習・実技等の授業形態を組み入れた学修方法による教育課程を以下のとおり編成し，実施する。

（１）主指導教授が担当する科目を１年次より２年間継続して履修し，修士論文・修士制作の作成のための指導を少人数制で実施する。
（２）全専攻共通科目である「芸術学特論」では，芸術の歴史のなかで各領域の芸術の果たしてきた役割と社会における意味を総合的に論考して，今日の芸術的状況を認識することを目的としている。また，「リサーチ特殊研究」では論文作成の基本と原則を習得し資料収集の方法などの能力を養うことを目的とし，芸術の表現力と技術を身に付けつつ，修士論文執筆のための実践的な指導を実施する。
（３）専攻ごとに芸術理論・歴史を専門的に探究する力を修得するための理論部門や，各自の専門研究における問題を自ら解決するための演習・実習部門を設置し科目を配置する。また，相互に関連する他専攻の専門科目を履修する関連領域部門では，学生自身の専門領域に留まらない知的関心に応えられるようなカリキュラムを編成する。

博士後期課程では，博士前期課程での研究をさらに発展させるため，指導教員により，論文作成における多岐にわたるアドバイスを行うとともに，研究成果発表のプレゼンテーション能力を強化し，コースワークとリサーチワークを組み合わせた体系的な授業形態を組み入れ，学生自身が独力で問題設定から解決までできることを目指した教育課程を以下のとおり編成し，実施する。

（１）１年次より主指導教員が担当する「芸術研究特別演習」を中心にリサーチワークを実施して，実技能力や調査研究能力，研究理論を構築する能力に関する綿密な指導をとおして，学生自らが設定する研究内容を高次なものへと高め，博士論文の作成に向けた総合的かつ実践的な研究指導を実施する。
（２）コースワークを充実させ，研究・創作の視野を広げ，幅広い学識を涵養するため，他領域の科目を履修するとともに，理論だけでなく作品制作等の表現をとおしての教育を実施する。また，「芸術学特殊研究」を必修科目として，芸術を学ぶ上で必要とされる芸術学や美学のほか様々な学問領域の歴史について理解する。
（３）博士論文提出までに１次予備試験，２次予備試験（中間発表）の２回の予備試験と博士論文提出の際の口頭発表をとおして，研究者・表現者として必要なプレゼンテーション能力を身に付けるとともに，指導教員以外の教員からの助言を受け博士論文を完成させる。

Ⅱ　入学試験出願資格及び募集人員

1. 入学試験出願資格

1）博士前期課程　一般入学試験

以下のいずれかの条件に該当するもの

① 大学を卒業した者及び２０２４年３月までに卒業見込みの者

② 学校教育法第１０４条第７項の規定により学士の学位を授与された者及び２０２４年３月までに学位を授与される見込みの者

③ 外国において学校教育における１６年の課程を修了した者及び２０２４年３月までに修了見込みの者

④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１６年の課程を修了した者及び２０２４年３月までに修了見込みの者

⑤ 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における１６年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び２０２４年３月までに修了見込みの者

⑥ 外国の大学等において、修業年限が３年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者及び２０２４年３月までに授与見込みがある者

⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び２０２４年３月までに修了見込みの者

⑧ 文部科学大臣の指定した者

⑨ 学校教育法第１０２条第２項の規定により大学院に入学した者であって，本大学院において，大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者【「入学資格審査」の対象です。出願を希望する場合は５ページの「入学資格審査について」に沿って手続きを進めてください。】

⑩ 本大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，２２歳に達したもの及び２０２４年３月までに２２歳に達する者【「入学資格審査」の対象です。出願を希望する場合は５ページの「入学資格審査について」に沿って手続きを進めてください。】

2）博士後期課程　一般入学試験

以下のいずれかの条件に該当するもの

① 修士の学位若しくは専門職学位を有する者及び２０２４年３月までに取得する見込みの者

② 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び２０２４年３月までに授与される見込みのある者

③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び２０２４年３月までに授与される見込みのある者

④ 我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び２０２４年３月までに授与される見込みのある者

⑤ 国際連合大学の課程を修了し,修士の学位に相当する学位を授与された者及び２０２４年３月までに授与される見込みの者

⑥　外国の学校，第４号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，修士論文又は特定課題の研究成果の審査と試験の合格に代える審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

⑦　文部科学大臣の指定した者

⑧　本大学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，２４歳に達したもの及び２０２４年３月までに２４歳に達する者【「入学資格審査」の対象です。出願を希望する場合は５ページの「入学資格審査について」に沿って手続きを進めてください。】

３）博士後期課程　社会人入学試験

以下のいずれかの条件に該当するもの

①　修士の学位若しくは専門職学位を有する者及び２０２４年３月までに取得する見込みの者で，日本国内の公共機関，企業等に現に勤務し，入学後も継続して勤務を続ける者

②　本大学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，２４歳に達したもの及び２０２４年３月までに２４歳に達するもので，日本国内の公共機関，企業等に現に勤務し，入学後も継続して勤務を続ける者【「入学資格審査」の対象です。出願を希望する場合は５ページの「入学資格審査について」に沿って手続きを進めてください。】

４）入学資格審査について

出願資格（４～５ページ）を確認し，事前に入学資格審査が必要な志願者は，芸術学研究科教務課大学院係あてお問い合わせの上，所定の期日【博士前期課程（一般入学試験）・博士後期課程（一般，社会人入学試験）＝２０２３年１１月１７日（金）】までに，入学資格審査申請書，入学資格審査調書及び入学検定料を除く出願書類一式を，所定の「出願用宛名ラベル」を貼付した角２封筒に入れて芸術学研究科教務課大学院係あて送付してください。

なお，出願書類は，入学資格審査が終了するまでその受領を保留します。

2. 募集人員

1）博士前期課程

専攻	分野	募集人員
文芸学専攻		20 名
映像芸術専攻	写真/映画/放送	20 名
造形芸術専攻	絵画/版画/彫刻/造形理論/地域芸術/ コミュニケーションデザイン/インダストリアルデザイン/建築デザイン	15 名
音楽芸術専攻	作曲/声楽/器楽/音楽学/音楽教育/情報音楽	10 名
舞台芸術専攻		10 名

2）博士後期課程

専攻	募集人員
芸術専攻	8名 （うち社会人3名）

（注）　募集人員は，すべての入学試験（外国人留学生入学試験・学部内選考入学試験・一般入学試験・社会人入学試験※後期課程のみ）を合わせた人数です。

Ⅲ　入学試験案内

1．入学試験諸日程

博士前期課程・博士後期課程（一般入学試験・社会人入学試験）

事前連絡期間	**2023 年 11 月 17 日(金) ～ 11 月 30 日(木)**
出願期間	**2023 年 12 月 7 日(木) ～ 12 月 25 日(月)【郵送必着】**
1次試験期日	**書類・論文作品等審査のため来校不要**
1次試験合格発表	**2024 年 1 月 30 日(火)【速達郵便にて通知】**
2次試験期日	**2024 年 2 月 17 日(土) 芸術学部のキャンパスで実施する試験**
2次試験合格発表	**2024 年 2 月 28 日(水)【速達郵便にて通知】**
入学手続期間	**2024 年 2 月 29 日(木) ～ 3 月 11 日(月)**

【 注意事項 】

⑴　出願前の「希望指導教授への事前連絡」については７ページを確認してください。

⑵　出願締切日は 2023 年 12 月 25 日が郵送必着となります。

⑶　１次試験は書類・論文もしくは作品等審査（専攻により異なる）で行うため，来校の必要はありません。

⑷　２次試験は１次試験合格者のみ，日本大学芸術学部江古田校舎に来校して受験していただきます。２次試験の詳細は１次試験合格者にのみ通知いたします。

2　入学検定料

出願期間中に以下の銀行口座にお振込みください。**※別紙「入学検定料の振込について」をご参照ください。**

出願書類一式は締切日必着となるため，締切日当日の納入はお控えください。

⑴ 振　込　先　　銀 行 名　三菱UFJ銀行　江古田支店

口座番号　普通　0000818

受取人口座名　日本大学芸術学部（ニホンダイガクゲイジュツガクブ）

⑵ 依頼人名義　　入試コード・志願者氏名（カタカナ）　を入力してください。

※入試コード　博士前期課程一般入試　　「２１」

博士後期課程一般入試　　「２４」

博士後期課程社会人入試　「２５」

（例）博士前期一般入試志願者は　２１・ニチゲイタロウ　と入力してください。

⑶ 振 込 金 額　35，000円

3. 出願にあたっての注意事項

1）希望指導教授への事前連絡ついて

大学院芸術学研究科へ出願する場合，博士前期課程，後期課程ともに出願前に希望指導教授への**事前連絡**(指導教授への研究内容の確認)が必要になります。事前連絡は所定の期間内に「事前相談・連絡フォーム」より申し込みしてください。(研究計画書のアップロードをしていただきます)

希望指導教授の指定にあたっては，芸術学研究科ホームページ（https://nihon-u-gsa.com/）をご覧いただき，各教授の研究領域を確認してください。

なお，同時に複数の教授や分野に事前連絡をすることは出来ません。

事前連絡を経て，指導教授や研究内容等の確認完了後，大学院係より**「事前連絡確認書」**が交付されます。出願される際は，必ず他の出願書類とともに**「事前連絡確認書」**の原本を提出してください。

事前連絡申込期間締切後の申し込みは送信ボタンの押し忘れや通信環境の不具合含め，一切お受けいたしません。締切間際に急いで申し込みをされる方は入力内容のミスが多くみられるため，時間に余裕をもってお申し込みください。

◆事前連絡申込期間

博士前期課程（一般入学試験）・博士後期課程（一般，社会人入学試験）

２０２３年１１月１７日（金）１０：００～１１月３０日(木)１７：００

「事前相談･連絡フォーム」は芸術学研究科ホームページ
(https://nihon-u-gsa.com/)より公開いたします。

※　**本学部の卒業見込生・修了見込生**は出願前に各自で希望指導教授へ連絡及び相談すること

2）　日本語能力に関する出願条件について

外国籍の志願者の日本語能力に関する出願条件は以下のとおりです。※　外国籍であっても本学部卒業(見込)生・修了(見込)生は除きます

・博士前期課程志願者は，出願時に，**日本語能力試験**において「**N2 以上**」に合格していること，又は**日本留学試験**において 2021 年 11 月，2022 年 6 月，11 月，2023 年 6 月，11 月実施のいずれかを受験し「日本語（読解，聴解・聴読解）で **240 点以上**」及び「日本語（記述）で **35 点以上**」を取得していること。

・博士後期課程志願者は，出願時に，**日本語能力試験**において「**N1**」に合格していること，又は**日本留学試験**において 2021 年 11 月，2022 年 6 月，11 月，2023 年 6 月，11 月実施のいずれかを受験し「日本語（読解，聴解・聴読解）で **280 点以上**」及び「日本語（記述）で **35 点以上**」を取得していること。

3）　その他

⑴　出願にあたっては，必ず本研究科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を含む３つ

のポリシーをお読みください。

⑵　複数の専攻分野を併願することは出来ません。

⑶　出願後の専攻・分野の変更は一切認められません。

⑷　いったん提出された出願書類及び納入された入学検定料は原則返還いたしません。

⑸　身体の機能に著しい障害のある方は，受験及び就学が困難な場合もありますので，出願前のできるだけ早い時期に，必ず芸術学研究科教務課大学院係に相談してください。

【個人情報の保護について】

日本大学では，ご提出いただきました志願書の氏名・住所等の個人情報は，入学試験の出願受付，実施，合格発表，さらには入学に至る一連の手続と，日本大学で学生生活を始めるに当たって必要となる書類・お知らせ等の送付及び入学者データの統計処理のために使用いたします。

なお，日本大学はこれらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合，日本大学及び当該業務の委託を受けた業者は，上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて志願者の個人情報を利用することはありません。

4. 合格発表

●１次試験合格発表　2024 年 1 月 30 日（火）　速達郵便にて通知（発送日）

●２次試験合格発表　2024 年 2 月 28 日（水）　速達郵便にて通知（発送日）

5. 出願方法

・封筒に出願書類を全て入れて「出願用宛名ラベル」を貼付の上，簡易書留にて日本大学芸術学研究科教務課大学院係へ出願締切日（2023 年 12 月 25 日）までに郵送してください。※郵送必着
・日本国外から出願する場合は「ＥＭＳ（Express Male Service）又は書留扱いの航空便（Registered Post by Air Mail）で郵送してください。

6. 出願書類一覧

１）博士前期課程　「＊」…専攻・志願者により必要か不要か異なる書類

書類等名	注意事項
(1)事前連絡確認書（原本）＊	⑴ 本学部卒業見込みの者は提出不要 ⑵ 詳細は７ページの「1) 希望指導教授との事前連絡について」参照
(2)入学志願票	⑴「志願票記入例及び注意事項」を確認し，作成してください。 ⑵ 出願後の記載事項の変更は認めません。 ⑶ 所定の２か所に顔写真（縦４㎝×横３㎝）を貼付してください。 ⑷ 緊急連絡先は日本に在住している方とします。 ⑸ 選択外国語は，文芸学専攻・映像芸術専攻・造形芸術専攻（造形理論分野のみ）音楽芸術専攻・舞台芸術専攻の志願者が選択してください。
(3)成績証明書 (4)卒業(見込)証明書	注意事項の詳細は 11 ページを参照してください。
(5)研究計画書（所定用紙）	⑴ 日本語で作成してください。 ⑵ 出願後の修正や差し替えは出来ません。
(6)審査のための作品・論文等 ＊	１次試験において，「論文または作品審査」がある専攻分野の志願者は 13～14 ページを確認の上，出願する専攻分野にあったものを提出してください。
(7)提出作品・論文等証明書（所定用紙）＊	⑴ 審査のための作品または論文等の提出が不要な専攻・分野の出願者に関しては提出の必要はありません。 ⑵ 本学部の卒業または卒業見込の者は，審査の作品・論文等を卒業論文／作品／制作に代えることができます。その場合は，「提出作品届（所定用紙）」を提出してください。 ⑶ 証明者は原則として在籍又は出身校の指導教授又はこれに準ずる方としてください。日本語学校に通っている者は日本語学校の教員の証明も可とします。家族や友人が証明者となることは出来ません。 ⑷ ㊞欄には必ず証明者の捺印もしくはサインをもらうこと。
(8)入学検定料振込証明書（大学提出用）	⑴ 別紙「入学検定料の振込について」を読み，お振込みください。 ⑵ 線で切り取り，下部分のみ提出してください。
(9)日本語能力に関する証明書類 ＊	**外国籍の志願者のみ提出**　注）本学部の卒業生，卒業見込生は不要 以下①～③のいずれか１点 ①「日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書」の原本又は写し（Ｎ２以上に合格しているもの） ② 日本留学試験の「成績確認書」　③ 日本留学試験の成績通知書の写し（2021 年 11 月，2022 年 6 月，11 月，2023 年 6 月，11 月実施のいずれかの試験で「日本語（読解、聴解・聴読解）で 240 点以上」および「日本語（記述）で 35 点以上」取得しているもの）

（次のページに続く）

(10)受験票・一次試験合否結果通知用宛名ラベル	⑴ カラー印刷推奨 ⑵ 受験票及び１次試験合否結果通知が確実に届く自身の住所を記入し，市販の長３封筒に貼り付けて提出してください。
(11)入学試験実技曲目届出書 ＊	音楽芸術専攻の声楽/器楽/音楽学分野の志願者のみ提出

２）博士後期課程〈一般・社会人入学試験〉

「＊」…志願者により必要か不要か異なる書類

	書類等名	注意事項
一般・社会人入試共通	(1)事前連絡確認書（原本）	⑴ 本研究科修了見込みの者は提出不要 ⑵ 詳細は７ページの「1）希望指導教授との事前連絡について」参照
	(2)入学志願票	⑴「志願票記入例及び注意事項」を確認し，作成してください。 ⑵ 出願後の記載事項の変更は認めません。 ⑶ 所定の２か所に顔写真（縦４㎝×横３㎝）を貼付してください。 ⑷ 緊急連絡先は日本に在住している方とします。 ⑸ 一般入学試験出願者は外国語を選択してください。
	(3)成績証明書	注意事項の詳細は 11 ページを参照してください。
	(4)修了（見込）証明書	
	(5)研究計画書（所定用紙）	⑴ 日本語で作成してください。 ⑵ 出願後の修正や差し替えは出来ません。
	(6)審査のための提出作品・論文等	15 ページを確認の上，提出してください。
	(7)提出作品・論文等証明書（所定用紙）	⑴ 本研究科の修了または修了見込の者は，審査の作品・論文等を修了論文／作品／制作に代えることができます。その場合は，「提出作品届（所定用紙）」を提出してください。 ⑵ 証明者は原則として在籍又は出身校の指導教授又はこれに準ずる方としてください。日本語学校に通っている者は日本語学校の教員の証明も可とします。家族や友人が証明者となることは出来ません。 ⑶ ㊞には必ず証明者の捺印もしくはサインをもらうこと。
	(8)入学検定料振込証明書（大学提出用）	⑴ 別紙「入学検定料の振込について」を読み，お振込みください。 ⑵ 切り取り線で切り取り，下部分のみ提出してください。
	(9)受験票・一次試験合否結果通知用宛名ラベル	⑴ カラー印刷推奨 ⑵ 受験票及び一次試験合否通知が確実に届く自身の住所を記入し，市販の長３封筒に貼り付けて提出してください。
	(10)日本語能力に関する書類 ＊	**外国籍の志願者のみ提出** 注）本学研究科の修了生，修了見込生は不要 以下①～③のいずれか１点 ①「日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書」の原本又は写し（Ｎ１に合格しているもの） ② 日本留学試験の「成績確認書」　③ 日本留学試験の成績通知書の写し（2021 年 11 月，2022 年 6 月，11 月，2023 年 6 月，11 月実施のいずれかの試験で「日本語（読解、聴解・聴読解）で 280 点以上」および「日本語（記述）で 35 点以上」取得しているもの）
社会人のみ	(11)研究業績報告書（所定用紙）	
	(12)勤務先所属長推薦書	様式自由

7. 出願書類に関する注意事項

１）出願書類共通

⑴　出願書類の所定用紙は日本大学ホームページよりダウンロードしてください。
（日本大学ホームページ：https://www.nihon-u.ac.jp/admission_info/application/graduate/application_forms/）

⑵　出願書類（提出作品を除く）はすべてＡ４サイズで印刷してください。

⑶　書類に直接記入して作成する場合は，黒のボールペン（消せるボールペンは不可）で丁寧に記入してください。

⑷　出願書類に不備があった場合は，原則として受け付けません。なお，書類・記載事項に不正が認められた場合は，判明した時点での資格（出願・合格・入学）を取り消します。

⑷　いったん提出された出願書類は原則返還いたしません。

２）卒業(見込)証明書・成績証明書

⑴　出身大学が発行した証明書**原本**を提出してください。

⑵　**日本語又は英語**で作成されたものを提出してください。
それ以外の言語で作成されたものを提出する場合は，日本語又は英語の翻訳文を添付し，大使館，総領事館等の公的機関による翻訳証明を提出してください。
なお，日本語学校・翻訳会社（法人によるものに限る）等での翻訳証明も認めますが，必ず翻訳責任者の氏名が記載され，学校・会社等の公印が押されたものを提出してください。

⑶　卒業・修了卒業・修了証明書の発行期限は問いませんが，卒業・修了**見込**証明書は出願前３ヶ月以内に発行したものを提出してください。

⑷　成績証明書は出身大学在学中の全学年分の成績が記載されたもの（各学年ごとに成績が記載されたもの）を提出してください。※履修状況等により，全学年分の成績が記載されない場合は，その理由を成績証明書に記載してください。

⑸　卒業見込者に限り提出する成績証明書は出願前３ヶ月以内に発行したものを提出してください。

⑹　インターネットやデータ出力による証明書（公印やサインが印刷されたもの）は原則受け付けません。

⑺　証明書の原本が提出できない場合は，certified true copy を提出してください。

certified true copy とは

（原本から正しく複製されたものであることを，出身学校，大使館，総領事館等の公的機関が証明したもの。（日本語学校・翻訳会社は含まれません）
（注）出身学校で証明をもらう場合は，必ず学校の公印が押されたものを提出してください。証明書が複数ページにわたる場合は，全てのページにおいて必要です。）

⑻　卒業証書等，一度しか発行されない書類を証明書として提出する場合は事前に芸術学研究科教務課大学院係へ連絡をしてください。

8. 出願書類送付先

出願用宛名ラベルを封筒に貼付の上，簡易書留にて郵送してください。
（出願締切日：2023 年 12 月 25 日　※郵送必着）

〒176-8525　東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学研究科教務課大学院係

（日本国外から郵送する場合）
Academic Affairs Section College of Art, Nihon University
2-42-1 Asahigaoka, Nerima-ku, Tokyo
〒176-8525 Japan

Ⅳ 入学試験科目，提出作品・論文等について

1．試験科目

1）博士前期課程

専攻	試験科目
文芸学	**＜１次試験＞** ①書類審査 **＜２次試験＞** ①外国語試験（英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可） ②日本語による小論文試験　③日本語による口述試験
映像芸術	**＜１次試験＞** ①書類審査　②論文または作品審査 **＜２次試験＞** ①外国語試験（英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可） ②日本語による小論文試験　③日本語による口述試験
造形芸術	**＜１次試験＞** ①書類審査【全分野】　②論文または作品審査【全分野】 **＜２次試験＞** ①外国語試験【造形理論分野のみ】 （英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可） ②日本語による小論文試験【デザイン(=CD,ID,AD)・造形理論・地域芸術分野】 ③実技試験【絵画・版画・彫刻分野】 ④日本語による口述試験【全分野】（絵画・版画・デザイン分野は別途提出する作品を用いて行う）
音楽芸術	**＜１次試験＞** ①書類審査【全分野】　②論文または作品審査【作曲・音楽学・音楽教育・情報音楽分野】 **＜２次試験＞** ①外国語試験【全分野】 （英語・独語・仏語・伊語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可） ②日本語による小論文試験【全分野】　③実技試験【声楽・器楽・音楽学分野】 ④日本語による口述試験【全分野】
舞台芸術	**＜１次試験＞** ①書類審査　②論文または作品・資料審査 **＜２次試験＞** ①外国語試験（英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可） ②日本語による小論文試験　③日本語による口述試験

2）博士後期課程〈一般入学試験・社会人入学試験〉

試験期日	試験科目
一般入学試験	**＜１次試験＞** ①書類審査　②論文または作品審査 **＜２次試験＞** ①外国語試験（英語・独語・仏語・伊語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可） ②日本語による論文試験　③日本語による口述試験
社会人入学試験	**＜１次試験＞** ①書類審査　②業績審査 **＜２次試験＞** ①日本語による論文試験　②日本語による口述試験

※　１次試験における「論文または作品等審査」の詳細は 13～15 ページを，２次試験の口述試験における提出作品（絵画・版画・デザイン分野のみ）の詳細は 16～17 ページを確認してください。

２．１次試験の概要　論文または作品審査等の詳細

各専攻分野の１次試験の概要（論文または作品審査）は以下のとおりです。「論文または作品審査」を実施する専攻分野の志願者は，指示に従った論文もしくは作品を提出してください。

・論文,作品の提出には「提出作品・論文等証明書」（所定用紙）の添付が必要になります。

・１次試験のために提出された論文,作品は１次試験合格発表日から１４日以内に申し出のあった方のみ返却いたします。（１次試験合格者は２次試験時に返却します）

１）博士前期課程

専攻	提出作品・論文の詳細（１次試験審査対象）
文芸学	**１　書類審査**
映像芸術	**１　書類審査** **２　論文または作品審査** **◆次のいずれかを提出すること（①～⑤は入学後の研究領域に属するものとする）** **①　写真作品** １テーマ 20 点以上のプリント（サイズは 8 インチ×10 インチ判あるいは A4 版以上）を台紙に貼付すること。B／W，カラーいずれも可 **②　映像作品** 提出作品は１本で 30 分程度を原則とする。 （アニメーション，アート作品などで，連作や１本数分の短編の場合，複数の提出も可とする） 提出作品については以下の要件を十分確認すること。 ※　言語が日本語でない場合は日本語字幕スーパーをつけることが望ましい。 それができない場合は，日本語による概要を添付すること。 ※　日本語によるスタッフ表（本人の担当を明記）を添付すること。 ※　DVD ビデオ・BD ビデオで提出する場合は、日本で再生できる方式・リージョンにすること。 必ずファイナライズされたものを提出すること。 ※　フラッシュメモリー等でデータ提出する場合は，提出時の最新の Windows Media Player， または，QuickTime Player で再生できるものにすること。 ※　フィルム（8mm，16mm，35mm）も可。 ※　作品の分数，また音声チャンネル等の再生指定がある場合はその情報を明記すること。 **③　シナリオ作品（紙媒体で提出すること）** **④　音響作品** ※　ディスク，データで提出どちらでもかまわないが，映像作品に準じ日本で再生できるもの， また特別な再生指示がある場合は明記すること。 ※　作品の分数を明記し，スタッフがいる場合はその表（本人の担当を明記）を添付すること。 **⑤　論文（紙媒体で提出すること）** 日本語又は英語による論文　※日本語による 4000 字程度の概要を添付すること
造形芸術	**１　書類審査** **２　論文または作品審査** **◆次のいずれかを提出すること** **①　絵画分野** 絵画作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ）１冊 **②　版画分野** 版画作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ）１冊 **③　彫刻分野** 彫刻作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ）１冊

	④　コミュニケーションデザイン分野 大学院の研究につながる３点の作品についてＰＤＦ６枚以内で簡潔にまとめたポートフォリオ１冊 **⑤　インダストリアルデザイン分野** 大学院の研究につながる３点の作品についてＰＤＦ６枚以内で簡潔にまとめたポートフォリオ１冊 **⑥　建築デザイン分野** 大学院の研究につながる３点の作品についてＰＤＦ６枚以内で簡潔にまとめたポートフォリオ１冊 **⑦　造形理論分野** 日本語による論文　※概要を添付すること **⑧　地域芸術分野** 日本語による論文　※概要を添付すること または　作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ）１冊
音楽芸術	**１　書類審査** **２　論文または作品審査【作曲・音楽学・音楽教育・情報音楽分野のみ】** **◆次のいずれかを提出すること** **①　作曲分野** 自作品の楽譜（２点を限度とする。編成や長さは問わない。録音ＣＤを添付することも可） **②　音楽学分野** 日本語または英語による音楽系の論文またはレポート（２点を限度とする。長さは問わない） **③　音楽教育分野** 日本語による音楽教育に関連する論文１本（卒業論文を含む）または レポート２点（授業等で提出ずみのもの） **④　情報音楽分野** 作品・ポートフォリオまたは論文（言語は問わず）を提出すること
舞台芸術	**１　書類審査** **２　論文または作品・資料審査** **◆次のいずれかを提出すること（①～④は入学後の研究領域に属するものとする）** **①　映像資料** 本人の出演・創舞・演出に該当する場合のみ ビデオテープ・ＤＶＤ・ＢＤ（日本国内で一般的に再生可能なものに限る）等の舞台映像資料 ※　映像資料は１本とする ※　チラシまたはパンフレットの写し等，必ず本人の担当や名前などが明記されているものを添付すること ※　ＤＶＤ・ＢＤはファイナライズしておくこと **②　戯曲** 舞台用に本人が創作した戯曲 戯曲は１本とし，実際に舞台で上演されたもの，または戯曲集やそれに相当する媒体に掲載されたもの ※　舞台上演されたものは実際に使用した台本（チラシまたはパンフレットも添付）を提出すること ※　戯曲集など書籍収録の場合は，実物またはコピーを提出すること。その場合は，必ず表紙・目次・奥付も添付すること **③　舞台資料** 今までに関わった舞台等（３作品を限度とする）の「ポートフォリオ（舞台資料）」 **④　論文** 日本語による論文　※概要を添付すること

２）博士後期課程〈一般入学試験・社会人入学試験〉

試験区分	提出作品・論文の詳細（１次試験審査対象）
一　般	**１　書類審査** **２　論文または作品審査** **◆次のいずれかを提出すること** **①　論文の場合** 日本語による論文と日本語による概要（４，０００字程度） 大学院博士前期（修士）課程修了時の修士論文，またはそれに代わる論文 **②　作品の場合** 修了作品等で副論文がある場合は添付すること **（１）　写真作品** １テーマ 20 点以上のプリント（サイズは８インチ×10 インチ判あるいは A4 版以上）を台紙に貼付すること。Ｂ／Ｗ，カラーいずれも可 **（２）　映像作品** 提出作品は１本で 30 分程度を原則とする。 （アニメーション，アート作品などで，連作や１本数分の短編の場合，複数の提出も可とする） 提出作品については以下の要件を十分確認すること。 ※　言語が日本語でない場合は日本語字幕スーパーをつけることが望ましい。 それができない場合は，日本語による概要を添付すること。 ※　日本語によるスタッフ表（本人の担当を明記）を添付すること。 ※　DVD ビデオ・BD ビデオで提出する場合は、日本で再生できる方式・リージョンにすること。 必ずファイナライズされたものを提出すること。 ※　フラッシュメモリー等でデータ提出する場合は，提出時の最新の Windows Media Player， または，QuickTime Player で再生できるものにすること。 ※　フィルム（8mm，16mm，35mm）も可。 ※　作品の分数，また音声チャンネル等の再生指定がある場合はその情報を明記すること。 **（３）　絵画** 絵画作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ）１冊 **（４）　版画** 版画作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ）１冊 **（５）　彫刻** 彫刻作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ）１冊 **（６）　コミュニケーションデザイン** 修了制作を含むポートフォリオ　１冊 **（７）　インダストリアルデザイン** 修了制作を含むポートフォリオ　１冊 **（８）　建築デザイン** 修了制作を含むポートフォリオ　１冊 **（９）　作曲** 作曲の場合は作品２点以上の楽譜（そのうち１点は音源ＣＤ）を提出 **（10）　演奏** 演奏の場合は演奏を録音したＣＤ（声楽は３０分程度，器楽は４０分程度）を提出
社会人	**上記論文・作品いずれかに加え，** **◆研究業績報告書《所定用紙》** 場合により業績現物の提出を求めることもある

3．2次試験の概要

２次試験は１次試験合格者のみが受験可能です。

２次試験は日本大学芸術学部（芸術学研究科）江古田校舎にて実施いたします。

１）博士前期課程

専攻	２次試験の概要
文芸学	**1　外国語試験** 英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可 **2　日本語による小論文試験** 試験当日に与えられたテーマで記述する **3　日本語による口述試験**
映像芸術	**1　外国語試験（全分野を対象）** 英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可 **2　日本語による小論文試験（全分野を対象）** 試験当日に与えられたテーマで記述する **3　日本語による口述試験（全分野を対象）**
造形芸術	**1　外国語試験（造形理論分野を対象）** 英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可 **2　日本語による小論文試験** **（コミュニケーションデザイン分野，インダストリアルデザイン分野，建築デザイン分野，造形理論分野，地域芸術分野を対象）** 試験当日に与えられたテーマで記述する **3　実技試験（絵画分野，版画分野，彫刻分野を対象）** **①　絵画分野及び版画分野** デッサン２時間 **②　彫刻分野** デッサン３時間 **4　日本語による口述試験（全分野を対象）** 絵画・版画・デザイン分野は提出作品を用いて行う　※P17【注意事項】⑴参照 絵画分野は「絵画作品 50 号以上３点」，版画分野は「版画作品５点以上」 コミュニケーションデザイン分野・インダストリアルデザイン分野・建築デザイン分野は「ポートフォリオ（自由にまとめてブックの形に仕上げたもの）」を指定期日までに提出すること。 立体系デザインの場合はモックアップや模型なども試験当日持参してプレゼンテーションを行う。
音楽芸術	**1　外国語試験（全分野を対象）** 英語・独語・仏語・伊語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可 **2　日本語による小論文試験（全分野を対象）** 専攻分野にかかわる研究テーマをあらかじめ各自設定し，記述する **3　実技試験（声楽分野，器楽分野，音楽学分野を対象）** **①　声楽分野** 任意の声楽曲（計 10 分以上 20 分以内。暗譜） **②　器楽分野** 各自の専攻する器楽曲（計 10 分以上 20 分以内。暗譜）※　ピアノ以外の楽器で受験する場合は，事前に問い合わせること **③　音楽学分野** 任意の楽器（声を含む）の演奏（３分程度以上。暗譜の必要はない） **4　日本語による口述試験（全分野を対象）**
舞台芸術	**1　外国語試験** 英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可 **2　日本語による小論文試験** 試験当日に与えられたテーマで記述する **3　日本語による口述試験**

２）博士後期課程〈一般入学試験・社会人入学試験〉

試験区分	２次試験の概要
一　般	**１　外国語試験** 英語・独語・仏語・伊語・日本語のうち自国語を除く１か国語選択　※辞書参照可 **２　日本語による論文試験** 試験当日に与えられたテーマで記述する **３　日本語による口述試験**
社会人	**１　日本語による論文試験** 試験当日に与えられたテーマで記述する **２　日本語による口述試験**

【２次試験の注意事項】

⑴　博士前期課程造形芸術専攻（絵画・版画・コミュニケーションデザイン・インダストリアルデザイン・建築デザイン分野）の作品提出について，提出期日・提出方法の詳細は１次試験合否通知時に合格者の方へお知らせいたします。

　また，２次試験で提出する作品においても，「提出作品・論文等証明書」の提出が必要となります。

⑵　小論文試験・論文試験ともにテーマ・字数・時間等は原則として当日の試験時に指示いたします。

⑶　外国語試験においては“辞書参照可”としますが，紙媒体の辞書のみとし電子辞書等は使用出来ません。

⑷　外国語試験や実技試験の過去問題は公開しておりません。

Ⅴ 2024年度（令和6年度）入学者芸術学研究科指導教授一覧

1．博士前期課程研究指導教授一覧

専攻	教員氏名
文 芸 学	青　木　敬　士
	上　田　　薫
	久　保　陽　子
	ジュリアン マニング
	ソコロワ山下聖美
	楊　　逸
映像芸術	佐　藤　英　裕
	田　中　里　実
	西　垣　仁　美
	大　谷　尚　子
	奥　野　邦　利
	上　倉　　泉
	古　賀　　太
	齊　藤　裕　人
	志　村　三代子
	鳥　山　正　晴
	増　田　治　宏
	松　島　哲　也
	安　部　　裕
	金　　龍　郎
	小　林　　偉
	中　町　綾　子
	星　野　　裕
	森　中　愼　也

専攻	教員氏名
造形芸術	瀬　島　　匠
	福　島　唯　史
	笹　井　祐　子
	鞍　掛　純　一
	池　田　光　宏
	笠　井　則　幸
	森　　香　織
	佐　藤　　徹
	長　瀬　浩　明
	若　原　一　貴
音楽芸術	伊　藤　弘　之
	大　寺　雅　子
	萩　原　貴　子
	川　上　　央
	髙　久　　暁
	三　戸　勇　気
舞台芸術	奥　山　　緑
	小　林　直　弥
	櫻　井　　歓
	中　野　成　樹
	松　永　雅　彦

◎　各教員の専門領域の詳細は芸術学研究科ホームページ（https://nihon-u-gsa.com/）等を参照してください。

◎　上表の内容は２０２３年９月現在のものです。今後，変更が生じる可能性があります。

2. 博士後期課程研究指導教授一覧

教員氏名	研究指導領域
上　田　　薫	文　芸
ソコロワ山下聖美	
楊　　逸	
西　垣　仁　美	映　像
奥　野　邦　利	
上　倉　　泉	
古　賀　　太	
齊　藤　裕　人	
志　村　三代子	
鳥　山　正　晴	
中　町　綾　子	
星　野　　裕	

教員氏名	研究指導領域
瀬　島　　匠	造　形
福　島　唯　史	
笹　井　祐　子	
鞍　掛　純　一	
笠　井　則　幸	
佐　藤　　徹	
長　瀬　浩　明	
伊　藤　弘　之	音　楽
萩　原　貴　子	
川　上　　央	
髙　久　　暁	
小　林　直　弥	舞　台

◎　各教員の専門領域の詳細は芸術学研究科ホームページ（https://nihon-u-gsa.com/）等を参照してください。

◎　上表の内容は２０２３年９月現在のものです。今後，変更が生じる可能性があります。

Ⅵ 入学手続及び入学時納入金・学費

1. 入学手続について

① 合格者は入学手続期間内に，入学手続時納入金を納め，手続きを完了してください。

② 入学手続完了後（入学時納入金を全額納入した後）に，やむをえない理由によって本学への入学を辞退する場合は，電話により２０２４年３月３０日（土）１７時までに入学を辞退する旨，日本大学芸術学研究科入試係（03-5995-8202）へ申し出てください。

申し出を受理しますと，「入学辞退願」を本研究科より送付いたしますので，必要事項を記入の上，既送の「入学許可書」と併せて速やかに返送してください。

手続き終了後，入学金を除く入学時納入金（諸会費等を含む）は返還いたします。ただし，いったん提出された入学手続書類及び入学金は返還いたしません。

なお，２０２４年４月１日（月）以降に申し出があった場合は本学に学籍が生じておりますので，入学手続書類及び入学時納入金は返還いたしません。（傷害保険については，約款の定めるところによる）

《注意》⑴ 入学辞退の申し出受理に際しては，直接本人の意思確認をさせていただきます。

⑵ 入学辞退の申し出を，本研究科が受理した後の辞退取り消しは認めません。

⑶ 「入学辞退願」が提出されない場合，入学金を除く入学時納入金の返還手続きができませんので，必ず提出してください。

③ その他，詳細は合格後配布される入学手続要項を参照してください。

2. 2024 年度入学者の入学金・授業料等納入金一覧

（単位：円）

課程・専攻		納入区分	入学金（入学時のみ）	授業料	施設設備資金	実験実習料	校友会費【準会員】	前学期 計 後学期 計	初年度 年 額	2年次以降 年 額
博士前期課程	文芸学	入学手続時（前学期）納入金	200,000	300,000	100,000	20,000	10,000	630,000	1,050,000	850,000
		後学期納入金	—	300,000	100,000	20,000	—	420,000		
	映像芸術	入学手続時（前学期）納入金	200,000	340,000	100,000	50,000	10,000	700,000	1,190,000	990,000
		後学期納入金	—	340,000	100,000	50,000	—	490,000		
	造形芸術	入学手続時（前学期）納入金	200,000	355,000	100,000	45,000	10,000	710,000	1,210,000	1,010,000
		後学期納入金	—	355,000	100,000	45,000	—	500,000		
	音楽芸術	入学手続時（前学期）納入金	200,000	355,000	100,000	55,000	10,000	720,000	1,230,000	1,030,000
		後学期納入金	—	355,000	100,000	55,000	—	510,000		
	舞台芸術	入学手続時（前学期）納入金	200,000	340,000	100,000	35,000	10,000	685,000	1,160,000	960,000
		後学期納入金	—	340,000	100,000	35,000	—	475,000		
博士後期課程	芸術	入学手続時（前学期）納入金	200,000	350,000	100,000	—	10,000	660,000	1,110,000	910,000
		後学期納入金	—	350,000	100,000	—	—	450,000		

※学内者（本大学を卒業した者または本大学院を修了した者）については入学金の納入はありません。

※修了予定年度の後学期に日本大学校友会正会員費初年度分として１０,０００円を代理徴収いたします。

Ⅶ 履修案内【2023年度（令和5年度）】参考

博士前期課程

文 芸 学 専 攻				
授業科目	単位数	履修年次	履修規定	授業担当者
A．理論部門			左記のうちから，分野を問わず30単位以上を選択履修しなければならない	
文芸学特論Ⅰ	4	1・2		上田　薫・植月惠一郎
文芸学特論Ⅱ	4	〃		上田　薫
哲学特論	4	〃		伊藤博明
芸術心理学特論	4	〃		野村康治
文芸情報学特論	4	〃		ジュリアン マニング
マスコミュニケーション論	4	〃		藤代裕之
メディア論	4	〃		阿久澤騰
文芸史特論	4	〃		山内　淳
芸術社会学特論	4	〃		三宅理一
文芸表現特論	4	〃		浅沼　璞・山本雅男
B．研究・創作部門				
外国文芸特殊研究	4	1～2	１科目選択必修	ソコロワ山下聖美・ジュリアン マニング
日本文芸特殊研究	4	〃		上田　薫・ソコロワ山下聖美
文芸創作特殊研究	4	〃		青木敬士・楊　逸
外国文芸特論Ⅰ	4	1		堀　邦維・山内　淳・山本雅男
外国文芸特論Ⅱ	4	2		堀　邦維・山内　淳
日本文芸特論Ⅰ	4	1		ソコロワ山下聖美・上坪裕介・谷村順一・清水　正
日本文芸特論Ⅱ	4	2		ソコロワ山下聖美・上坪裕介・谷村順一・清水　正
文芸創作特論Ⅰ	4	1		青木敬士・楊　逸
文芸創作特論Ⅱ	4	2		青木敬士・楊　逸
C．関連領域部門				
芸術学特論	4	1・2		上田　薫・川崎賢子・渡部葉子
リサーチ特殊研究Ⅰ	2	〃		晏　　妮
リサーチ特殊研究Ⅱ	2	〃		吉野大輔
映画史特論	4	〃		志村三代子・相内啓司
放送史特論	4	〃		鈴木康弘
日本美術史特論Ⅰ	2	〃		大熊敏之
日本美術史特論Ⅱ	2	〃		田口文哉
西洋美術史特論Ⅰ	2	〃		出羽　尚
西洋美術史特論Ⅱ	2	〃		出羽　尚
日本音楽史特論	4	〃		
西洋音楽史特論	4	〃		平野　昭
演劇史特論	4	〃		法月敏彦
D．連携研究部門				
連携理論研究Ⅰ	2	1		青木敬士
連携理論研究Ⅱ	2	〃		青木敬士
連携表現研究Ⅰ	2	〃		青木敬士
連携表現研究Ⅱ	2	〃		青木敬士
学位論文・作品				

映 像 芸 術 専 攻

授業科目	単位数	履修年次	履修規定	授業担当者
A．理論部門			左記のうちから，分野を	
映像特論	4	1	問わず30単位以上を選択	鳥山正晴
写真史特論	4	1・2	履修しなければならない	三井圭司
映画史特論	4	〃		志村三代子・相内啓司
放送史特論	4	〃		鈴木康弘
映像構成特論	4	〃		相内啓司・手塚昌明
映像技術特論	4	〃		
映像音響特論	4	〃		眞道正樹
映像教育研究	4	〃		
B．演習・実習部門				
映像表現研究Ⅰ	4	1～2		田中里実・上倉　泉・齊藤裕人・鳥山正晴・松島哲也
写真特殊研究Ⅰ	4	〃		西垣仁美
映画特殊研究Ⅰ	4	〃		古賀　太・志村三代子
放送特殊研究Ⅰ	4	〃	１科目選択必修	兼高聖雄
映像メディア特殊研究Ⅰ	4	〃		奥野邦利
映像作品特殊研究Ⅰ	4	〃		佐藤英裕・鳥山正晴・小林　偉・鈴木康弘
映像技術特殊研究Ⅰ	4	〃		
映像表現研究Ⅱ	2	1・2		浅井　譲・田中里実・服部一人・大谷尚子・清水和貴・松島哲也・増田治宏・青木研次・近森眞史・花柳貴答・福田卓郎・宮澤誠一
写真特殊研究Ⅱ	2	〃		高橋則英・西垣仁美
映画特殊研究Ⅱ	2	〃		古賀　太・増田治宏・晏　　妮・山田　均
放送特殊研究Ⅱ	2	〃		兼高聖雄・小林　偉
映像メディア特殊研究Ⅱ	2	〃		片渕須直・加藤亮介・瀬島久美子・横田正夫
映像作品特殊研究Ⅱ	2	〃		佐藤英裕・茅原良平・金　龍郎・小林　偉・鈴木康弘・中町綾子・星野　裕・森中愼也・谷　昭佳・寺脇　研
映像技術特殊研究Ⅱ	2	〃		秋元貴美子・上倉　泉・玉木則順・安部　裕・
C．関連領域部門				落合賢一・河野純一
芸術学特論	④	1		上田　薫・川崎賢子・渡部葉子
リサーチ特殊研究Ⅰ	2	1・2		晏　　妮
リサーチ特殊研究Ⅱ	2	〃		吉野大輔
文芸学特論Ⅰ	4	〃		上田　薫・植月惠一郎
文芸学特論Ⅱ	4	〃		上田　薫
哲学特論	4	〃		伊藤博明
芸術心理学特論	4	〃		野村康治
文芸情報学特論	4	〃		ジュリアン マニング
マスコミュニケーション論	4	〃		藤代裕之
メディア論	4	〃		阿久澤騰
文芸史特論	4	〃		山内　淳
芸術社会学特論	4	〃		三宅理一
造形特論	4	1		大西若人・山中敏正
建築造形特論	4	〃		三宅理一
デザイン史特論Ⅰ	2	1・2		森　香織・小林昭世
デザイン史特論Ⅱ	2	〃		森　香織・小林昭世
建築デザイン史特論Ⅰ	2	〃		伏見　唯
建築デザイン史特論Ⅱ	2	〃		伏見　唯
日本美術史特論Ⅰ	2	〃		大熊敏之
日本美術史特論Ⅱ	2	〃		田口文哉
西洋美術史特論Ⅰ	2	〃		出羽　尚
西洋美術史特論Ⅱ	2	〃		出羽　尚
音楽芸術特論Ⅰ	4	1		笠羽映子
音楽芸術特論Ⅱ	4	1・2		平野　昭
日本音楽史特論	4	〃		
西洋音楽史特論	4	〃		平野　昭
情報音楽特論	4	〃		岩宮眞一郎
音楽心理学特論	4	〃		大寺雅子
舞台芸術特論	4	1		小林直弥
演劇史特論	4	1・2		法月敏彦
民俗芸能特論	4	〃		宮尾慈良
舞踊史特論	4	〃		松澤慶信・丸茂祐佳
古典劇特論	4	〃		
映像文献原典講読	4	〃		堀　邦維
D．連携研究部門				
連携理論研究Ⅰ	2	1		鳥山正晴
連携理論研究Ⅱ	2	〃		鳥山正晴
連携表現研究Ⅰ	2	〃		鳥山正晴
連携表現研究Ⅱ	2	〃		鳥山正晴
学位論文・作品・制作				

造 形 芸 術 専 攻

授業科目	単位数	履修年次	履修規定	授業担当者
A．理論部門			左記のうちから，分野を問わず30単位以上を選択履修しなければならない。ただし，デザイン実務研究は修了に必要な単位数に算入しない。	
造形特論	4	1		大西若人・山中敏正
建築造形特論	4	〃		三宅理一
日本美術史特論Ⅰ	2	1・2		大熊敏之
日本美術史特論Ⅱ	2	〃		田口文哉
西洋美術史特論Ⅰ	2	〃		出羽　尚
西洋美術史特論Ⅱ	2	〃		出羽　尚
デザイン史特論Ⅰ	2	〃		森　香織・小林昭世
デザイン史特論Ⅱ	2	〃		森　香織・小林昭世
建築デザイン史特論Ⅰ	2	〃		伏見　唯
建築デザイン史特論Ⅱ	2	〃		伏見　唯
美術教育研究Ⅰ	2	〃		金澤健一
美術教育研究Ⅱ	2	〃		金澤健一
B．演習・実習部門				
造形芸術研究Ⅰ（絵画・版画）	4	1～2		笹井祐子・福島唯史・瀬島　匠
造形芸術研究Ⅰ（彫刻）	4	〃		鞍掛純一
造形芸術研究Ⅰ（デザイン）	4	〃	１科目選択必修	笠井則幸・佐藤　徹・長瀬浩明・森　香織・若原一貴
造形理論研究Ⅰ	4	〃		鞍掛純一
造形芸術研究Ⅱ（絵画・版画）	2	1・2		笹井祐子・瀬島　匠・福島唯史・坪井麻衣子 大庭英治・作田富幸・渡辺有葵・吉岡正人
造形芸術研究Ⅱ（彫刻）	2	〃	１科目選択必修	鞍掛純一・寺内曜子
造形芸術研究Ⅱ（デザイン）	2	〃		池田光弘・笠井則幸・森　香織・佐藤　徹 長瀬浩明・若原一貴
造形理論研究Ⅱ	2	〃		大熊敏之・出羽　尚・山中敏正
絵画特殊研究Ⅰ	2	〃		嶋村有里子
絵画特殊研究Ⅱ	2	〃		鴻崎正武・吉岡正人
版画特殊研究Ⅰ	2	〃		作田富幸・八木なぎさ
版画特殊研究Ⅱ	2	〃		作田富幸
彫刻特殊研究Ⅰ	2	〃		飯田竜太・藤井　匡
彫刻特殊研究Ⅱ	2	〃		海崎三郎
デザイン特殊研究Ⅰ	2	〃		熊谷廣己・山中敏正・佐賀一郎
デザイン特殊研究Ⅱ	2	〃		肥田不二夫・佐賀一郎
デザイン特殊研究Ⅲ	2	〃		山本守和・松本　有
絵画作品研究Ⅰ	2	〃		大庭英治・鴻崎正武
絵画作品研究Ⅱ	2	〃		吉岡正人
版画作品研究Ⅰ	2	〃		野口玲一
版画作品研究Ⅱ	2	〃		西尾　彩
彫刻作品研究Ⅰ	2	〃		鷹尾俊一
彫刻作品研究Ⅱ	2	〃		大槻孝之
デザイン作品研究Ⅰ	2	〃		肥田不二夫・伊藤　寛
デザイン作品研究Ⅱ	2	〃		木村政司・伊藤　寛
デザイン作品研究Ⅲ	2	〃		小林昭世
デザイン作品研究Ⅳ	2	〃		
デザイン実務研究	4	〃		
C．関連領域部門				
芸術学特論	4	1		上田　薫・川崎賢子・渡部葉子
リサーチ特殊研究Ⅰ	2	1・2		晏　　妮
リサーチ特殊研究Ⅱ	2	〃		吉野大輔
文芸学特論Ⅰ	4	〃		上田　薫・植月惠一郎
哲学特論	4	〃		伊藤博明
文芸情報学特論	4	〃		ジュリアン マニング
映像特論	4	1		鳥山正晴
写真史特論	4	1・2		三井圭司
映画史特論	4	〃		志村三代子・相内啓司
放送史特論	4	〃		鈴木康弘
音楽芸術特論Ⅰ	4	1		笠羽映子
日本音楽史特論	4	1・2		
西洋音楽史特論	4	〃		平野　昭
情報音楽特論	4	〃		岩宮眞一郎
音楽心理学特論	4	〃		大寺雅子
舞台芸術特論	4	1		小林直弥
演劇史特論	4	1・2		法月敏彦
民俗芸能特論	4	〃		宮尾慈良
古典劇特論	4	〃		
芸術心理学特論	4	〃		野村康治
芸術社会学特論	4	〃		三宅理一
造形文献原典講読	4	〃		
D．連携研究部門				
連携理論研究Ⅰ	2	1		森　香織
連携理論研究Ⅱ	2	〃		森　香織
連携表現研究Ⅰ	2	〃		森　香織
連携表現研究Ⅱ	2	〃		森　香織
学位論文・作品・制作				

音 楽 芸 術 専 攻

授業科目	単位数	履修年次	履修規定	授業担当者
A．理論部門			左記のうちから，分野を問わず30単位以上を選択履修しなければならない	
音楽芸術特論Ⅰ	4	1		笠羽映子
音楽芸術特論Ⅱ	4	1・2		平野　昭
日本音楽史特論	4	〃		
西洋音楽史特論	4	〃		平野　昭
情報音楽特論	4	〃		岩宮眞一郎
音楽教育特論	4	〃		江間孝子
音楽心理学特論	4	〃		大寺雅子
B．演習・実習部門				
作曲特殊研究	4	1～2	1科目選択必修	伊藤弘之
声楽特殊研究	4	〃		齊田正子・髙久　暁
器楽特殊研究	4	〃		田代幸弘・萩原貴子
音楽学研究	4	〃		伊藤弘之
音楽教育研究	4	〃		大寺雅子
情報音楽研究	4	〃		川上　央・三戸勇気
音楽理論研究Ⅰ	2	1		伊藤弘之・大寺雅子・川上　央・髙久　暁・三戸勇気・岩宮眞一郎
音楽理論研究Ⅱ	2	2		伊藤弘之・川上　央・髙久　暁・大寺雅子・三戸勇気・吉野大輔・岩宮眞一郎
音楽表現研究Ⅰ	2	1		伊藤弘之・齊田正子・田代幸弘・萩原貴子・吉田行地・脇岡洋平・佐々木伸・袴田和泉・本田聖嗣・松本　明
音楽表現研究Ⅱ	2	2		伊藤弘之・齊田正子・田代幸弘・萩原貴子・吉田行地・脇岡洋平・原田　圭・田村由貴絵・二ツ木千由紀・楊　麗貞
音楽作品研究	2	1・2		齊田正子・今泉　久・楊　麗貞
指揮研究	2	〃		今泉　久
C．関連領域部門				
芸術学特論	④	1		上田　薫・川崎賢子・渡部葉子
リサーチ特殊研究Ⅰ	2	1・2		晏　　妮
リサーチ特殊研究Ⅱ	2	〃		吉野大輔
造形特論	4	1		大西若人・山中敏正
映像特論	4	〃		鳥山正晴
映像構成特論	4	1・2		相内啓司・手塚昌明
映像音響特論	4	〃		眞道正樹
放送史特論	4	〃		鈴木康弘
演劇史特論	4	〃		法月敏彦
舞踊史特論	4	〃		松澤慶信・丸茂祐佳
民俗芸能特論	4	〃		宮尾慈良
日本美術史特論Ⅰ	2	〃		大熊敏之
日本美術史特論Ⅱ	2	〃		田口文哉
西洋美術史特論Ⅰ	2	〃		出羽　尚
西洋美術史特論Ⅱ	2	〃		出羽　尚
文芸史特論	4	〃		山内　淳
哲学特論	4	〃		伊藤博明
音楽文献原典講読	4	〃		北岡晃子
D．連携研究部門				
連携理論研究Ⅰ	2	1		齊田正子
連携理論研究Ⅱ	2	〃		齊田正子
連携表現研究Ⅰ	2	〃		齊田正子
連携表現研究Ⅱ	2	〃		齊田正子
学位論文・作品・制作				

舞 台 芸 術 専 攻

授業科目	単位数	履修年次	履修規定	授業担当者
A．理論・歴史部門			左記のうちから，分野を問わず30単位以上を選択履修しなければならない	
舞台芸術特論	4	1		小林直弥
演劇史特論	4	1・2		法月敏彦
舞踊史特論	4	〃		范　　旅・松澤慶信・丸茂祐佳
民俗芸能特論	4	〃		宮尾慈良
古典劇特論	4	〃		
応用演劇特論	4	〃		櫻井　歓・小沢　徹
アート・マネージメント特論	4	〃		奥山　緑
B．演習・実習部門				
舞台表現研究	4	1～2	1科目選択必修	中野成樹・松永雅彦・松山　立・加藤みや子
舞踊特殊研究	4	〃		小林直弥・范　　旅
戯曲特殊研究	4	〃		川村　毅
舞台演出特殊研究	4	〃		山口英峰・藤崎周平・神永光規
舞台美術特殊研究	4	〃		大久保惠児・千早正美
古典演劇特殊研究	4	〃		
民俗芸能特殊研究	4	〃		小林直弥
応用演劇特殊研究	4	〃		奥山　緑・櫻井　歓
C．関連領域部門				
芸術学特論	④	1		上田　薫・川崎賢子・渡部葉子
リサーチ特殊研究Ⅰ	2	1・2		晏　　妮
リサーチ特殊研究Ⅱ	2	〃		吉野大輔
メディア論	4	〃		阿久澤騰
映像特論	4	1		鳥山正晴
造形特論	4	〃		大西若人・山中敏正
音楽芸術特論Ⅰ	4	〃		笠羽映子
音楽芸術特論Ⅱ	4	1・2		平野　昭
映画史特論	4	〃		志村三代子・相内啓司
放送史特論	4	〃		鈴木康弘
映像音響特論	4	〃		眞道正樹
音楽心理学特論	4	〃		大寺雅子
演劇文献原典講読	4	〃		植月惠一郎
D．連携研究部門				
連携理論研究Ⅰ	2	1		小林直弥
連携理論研究Ⅱ	2	〃		小林直弥
連携表現研究Ⅰ	2	〃		小林直弥
連携表現研究Ⅱ	2	〃		小林直弥
学位論文・作品・制作				

芸　術　専　攻

授業科目	単位数	履修年次	履修規定	授業担当者
			A理論・歴史研究領域から必修単位を含めて４単位以上，Ｂ表現研究領域から２単位以上およびC特定研究領域４単位の合計10単位以上を修得しなければならない	
A．理論・歴史研究領域				
芸術学特殊研究	②	1		大熊敏之・伊藤博明
映像理論特殊研究	2	1・2	１科目選択必修	川崎賢子
写真史特殊研究	2	〃		
映画史特殊研究	2	〃		古賀　太
写真技術特殊研究	2	〃		
映像技術特殊研究	2	〃		上倉　泉
造形理論特殊研究	2	〃		大熊敏之・小林昭世・山中敏正
美術史特殊研究	2	〃		大熊敏之
デザイン史特殊研究	2	〃		
文芸理論特殊研究	2	〃		山本雅男
文芸史特殊研究	2	〃		上田　薫・清水　正
舞台芸術理論特殊研究	2	〃		
演劇史特殊研究	2	〃		
メディア・コミュニケーション特殊研究	2	〃		上田　薫・瀬島久美子
音楽理論特殊研究	2	〃		髙久　暁
音楽史特殊研究	2	〃		笠羽映子
芸術教育特殊研究	2	〃		寺脇　研
B．表現研究領域				
映像表現特別研究	2	1・2	１科目選択必修	奥野邦利・齊藤裕人・鳥山正晴・松島哲也・鈴木康弘・中町綾子・星野　裕・森中愼也宮澤誠一
造形表現特別研究	2	〃		鞍掛純一・笹井祐子・瀬島　匠笠井則幸・佐藤　徹・森香織・長瀬浩明
文芸表現特別研究	2	〃		楊　逸
舞台表現特別研究	2	〃		
音楽表現特別研究	2	〃		齊田正子・田代幸弘・萩原貴子・楊　麗貞
C．特定研究領域				
芸術研究特別演習	④	1～2		ソコロワ山下聖美・楊　逸・奥野邦利・鳥山正晴・松島哲也・古賀　太・兼高聖雄・大熊敏之・瀬島　匠・福島唯史・笹井祐子・森　香織・伊藤弘之・川上　央・髙久　暁・田代幸弘・萩原貴子
学位論文				

Ⅷ 就学情報

学位授与について

1　博士前期課程

◎ 修了要件

以下の条件を満たした場合，大学院修了時に修士（芸術学）の学位が授与されます。

①　単位履修規定に則り，必修科目を含め３０単位以上を修得すること

②　学位論文・作品・制作を提出し，最終審査及び試験に合格すること

◎ 修士論文・作品・制作作成規定

専　攻	分　野	論文・作品・制作概要
文 芸 学		論文（四百字詰原稿用紙１００枚以上）提出 または創作（四百字詰原稿用紙１００枚以上）及び副論文（四百字詰原稿用紙５０枚以上）提出 論文，創作，副論文いずれも要旨（六百字程度）を付けること
映像芸術		１　作品の場合（次のいずれか） ①　写真 １テーマ２０点以上のプリント　サイズはＡ３判，あるいは11×14インチ判相当とし台紙に貼付し16×20インチのストレージボックスに入れて提出 古典・特殊技法等のサイズについては別途指示する ②　映像作品 ビデオ，フィルム等の各種フォーマットについては，担当教員と相談のこと。 映画倫理規程等をはじめ各種法規を遵守すること。 ③　マルチイメージ プロジェクション・コントロール情報，画面配置設計図も提出 既存のスクリーンサイズを逸脱する場合のスクリーン制作は自己負担とする ④　インスタレーション 画面配置図も提出　立体構成等の状況設定は自己負担とする ⑤　シナリオ 換算枚数二百字２００枚以上 ⑥　音響作品 各種フォーマットは担当教員と相談とのこと 上記①～⑥いずれの場合も副論文（四百字３０枚以上）提出 ２　論文の場合 論文（四百字１００枚以上）提出
造形芸術	絵　画 版　画 彫　刻	制作及び副論文（四百字２０枚以上）提出
	Ｃ　Ｄ Ｉ　Ｄ Ａ　Ｄ	論文（四百字５０枚以上）提出 または　制作及び副論文（四百字２０枚以上）提出
	造形理論	論文（四百字１００枚以上）提出
音楽芸術	音楽教育 音 楽 学	論文（四百字１００枚以上）提出
	情報音楽	論文（四百字１００枚以上）提出
	作　曲	作品（演奏時間が１５分程度以上の楽曲）及び副論文（四百字５０枚程度）提出
	器　楽	演奏（４０分以上）及び副論文（四百字５０枚程度）提出
	声　楽	演奏（３０分以上）及び副論文（四百字５０枚程度）提出
舞台芸術		論文（四百字１００枚（40,000字以上）提出または制作及び副論文（四百字３０枚（12,000字以上）提出

※　上記作成規定は令和５年９月現在の内容であり，今後，都合により変更される場合があります。

２　博士後期課程

◎ 修了要件

以下の条件を満たした場合，大学院修了時に博士（芸術学）の学位が授与されます。

①　単位履修規定に則り，必修科目を含め１０単位以上を修得すること。

②　学位論文を提出し，最終審査及び試験に合格すること。

◎ 学位論文指導・作成規定

１　論文指導

①　学位論文指導教員は，Ｃ領域の教員とする。

②　学位論文指導には，指導教員以外に副指導教員を設け，指導を受けることができる。

③　副指導教員を設ける場合は，指導教員と相談の上，決めること。

④　副指導教員を設けた場合は，その教員の授業科目を履修することが望ましい。

２　論文枚数等

①　論文審査の場合

⑴　４００字詰原稿用紙２００枚以上（本文のみとし，表等資料・注釈・引用文献等は含まない）とする。

⑵　論文は簡易印刷またはワープロ作成とし，表紙・背表紙をつけて製本すること。

⑶　Ａ４判４頁（4000字）以内の内容の要旨を添付すること。要旨は，ワープロ作成とする。

②　論文に創作成果を加えて審査する場合

⑴　４００字詰原稿用紙１００枚以上（本文のみとし，表等資料・注釈・引用文献等は含まない）とする。

⑵　創作作品は学位論文に対応する内容とするが，作品のサイズ・数量・体裁等の詳細は別に定める。

⑶　論文の体裁等は①と同様とする。

上記をめやすとし，指導教員と相談の上，決定すること。

免許・資格等について

（令和５年９月現在）

◆教職課程◆

1　教育職員専修免許状

大学（学部）卒業時に中学・高校一種教員免許状を取得している者は，本研究科において所定の単位（科目）を修得することにより，大学院（前期課程）修了時取得を前提とした，下記の免許状の申請を行うことができます。

課程認定を受けている専攻	免許の種類	免許教科	
博士前期課程　文 芸 学 専 攻	中学校教諭専修免許状	国語	
	高等学校教諭専修免許状		
博士前期課程　造 形 芸 術 専 攻	中学校教諭専修免許状	美術	
	高等学校教諭専修免許状		工芸
博士前期課程　音 楽 芸 術 専 攻	中学校教諭専修免許状	音楽	
	高等学校教諭専修免許状		

2　教育職員専修免許状申請の条件

①　基礎資格

修士の学位を取得する見込みがあること（芸術学研究科修了）

②　所定単位数（科目）

教科	科目設置専攻	必要な単位数	設　置　科　目　（単位数）
国語（中・高）	文 芸 学	24単位以上	文芸学特論Ⅰ(4)・文芸学特論Ⅱ(4)・芸術心理学特論(4)・文芸史特論(4)・文芸表現特論(4)・外国文芸特論Ⅰ(4)・外国文芸特論Ⅱ(4)・日本文芸特論Ⅰ(4)・日本文芸特論Ⅱ(4)・文芸創作特論Ⅰ(4)・文芸創作特論Ⅱ(4)
美術（中・高）	造形芸術	24単位以上	造形特論(4)・日本美術史特論Ⅰ(2)・日本美術史特論Ⅱ(2)・西洋美術史特論Ⅰ(2)・西洋美術史特論Ⅱ(2)・デザイン史特論Ⅰ(2)・デザイン史特論Ⅱ(2)・美術教育研究Ⅰ(2)・美術教育研究Ⅱ(2)・造形芸術研究Ⅱ(絵画・版画)(2)・造形芸術研究Ⅱ(彫刻)(2)・造形芸術研究Ⅱ(デザイン)(2)・造形理論研究Ⅱ(2)・絵画特殊研究Ⅰ(2)・絵画特殊研究Ⅱ(2)・版画特殊研究Ⅰ(2)・版画特殊研究Ⅱ(2)・彫刻特殊研究Ⅰ(2)・彫刻特殊研究Ⅱ(2)・デザイン特殊研究Ⅰ(2)・デザイン特殊研究Ⅱ(2)・デザイン特殊研究Ⅲ(2)・絵画作品研究Ⅰ(2)・絵画作品研究Ⅱ(2)・版画作品研究Ⅰ(2)・版画作品研究Ⅱ(2)・彫刻作品研究Ⅰ(2)・彫刻作品研究Ⅱ(2)・デザイン作品研究Ⅰ(2)・デザイン作品研究Ⅱ(2)・デザイン作品研究Ⅲ(2)・デザイン作品研究Ⅳ(2)

工芸 （高）	造形芸術	24単位 以　上	造形特論⑷・日本美術史特論Ⅰ⑵・日本美術史特論Ⅱ⑵・西洋美術史特論Ⅰ⑵・西洋美術史特論Ⅱ⑵・デザイン史特論Ⅰ⑵・デザイン史特論Ⅱ⑵・美術教育研究Ⅰ⑵・美術教育研究Ⅱ⑵・造形芸術研究Ⅱ（絵画・版画）⑵・造形芸術研究Ⅱ（彫刻）⑵・版画特殊研究Ⅱ⑵・彫刻特殊研究Ⅰ⑵・彫刻特殊研究Ⅱ⑵・デザイン特殊研究Ⅲ⑵・版画作品研究Ⅰ⑵・彫刻作品研究Ⅰ⑵・彫刻作品研究Ⅱ⑵・デザイン作品研究Ⅲ⑵・デザイン作品研究Ⅳ⑵
音楽 （中・高）	音楽芸術	24単位 以　上	音楽芸術特論Ⅰ⑷・音楽芸術特論Ⅱ⑷・西洋音楽史特論⑷・情報音楽特論⑷・音楽教育特論⑷・音楽心理学特論⑷・作曲特殊研究⑷・声楽特殊研究⑷・器楽特殊研究⑷・音楽学研究⑷・音楽教育研究⑷・情報音楽研究⑷・音楽理論研究Ⅰ⑵・音楽理論研究Ⅱ⑵・音楽表現研究Ⅰ⑵・音楽表現研究Ⅱ⑵・

※　中学・高校一種教員免許状未取得者は，芸術学部の科目等履修生として規定の単位数を修得することにより，一種教員免許状の申請を行うことができます。科目等履修生として科目を履修するためには，所定の手続き及び履修料が必要となりますので，手続きの詳細等は教務課にて確認してください。

◆司書課程◆

芸術学部では，司書資格を取得するための課程として司書課程が開設されています。よって，大学院生についても芸術学部の科目等履修生として所定の単位数を修得することにより，司書の資格が取得できます。ただし，科目等履修生として科目を履修するためには，所定の手続き及び履修料が必要となりますので，手続きの詳細等は教務課にて確認してください。

◆司書教諭課程◆

芸術学部では，司書教諭資格を取得するための課程として司書教諭課程が開設されています。よって，大学院生についても芸術学部の科目等履修生として所定の単位数を修得することにより，司書教諭の資格が取得できます。ただし，科目等履修生として科目を履修するためには，所定の手続き及び履修料が必要となりますので，手続きの詳細等は教務課にて確認してください。

なお，司書教諭の資格を得るためには，小学校，中学校，高等学校又は特別支援学校の教諭の免許状（免許の種類・教科は問いません）の取得が必要となります。

◆学芸員課程◆

芸術学部では，学芸員資格を取得するための課程として学芸員課程が設置されています。よって，大学院生についても芸術学部の科目等履修生として所定の単位数を修得することにより，学芸員の資格が取得できます。ただし，科目等履修生として科目を履修するためには，所定の手続き及び履修料が必要となりますので，手続きの詳細等は教務課にて確認してください。

◆一級建築士受験資格のための実務経験◆

芸術学部デザイン学科の授業カリキュラムは，一級・二級建築士受験資格のための指定科目認定を受けています。よって，同様の認定を受けている学部・学科・コース等を卒業して本研究科に入学した者は，造形芸術専攻において，インターンシップ及びインターンシップ関連科目を必要単位数以上修得した場合，一級建築士免許登録要件２年のうち，１年の実務経験としてカウントできます。

なお，建築士受験資格取得を希望する学生は，造形芸術専攻のガイダンスにて説明を受けてください。

海外留学について

（令和５年９月現在）

１　交換留学生制度（学生交換協定に基づく海外留学）

日本大学の派遣交換留学生選考試験に合格して留学する場合は，１年間の留学ができます。
帰国後，単位取得状況によりその他の認定単位を含めて，１５単位を超えない範囲で単位の互換認定を認める場合があります。
なお，留学先大学（プログラム）により内容が異なりますので，希望者は教務課に申し出て確認してください。

２　日本大学大学院海外派遣奨学生

研究者の育成及び国際交流の進展を図り，本大学の発展に資することを目的として，大学院学生を１年間海外に派遣する制度です。
募集については，５月頃に掲示でお知らせします。

【日本大学大学院海外派遣奨学生概要】

留学先	任意。留学先の選定及び受入交渉等は希望者本人が行う
資格	本大学大学院に在学する心身ともに健全にして学業成績優秀な者
留学期間	原則として１年
派遣者決定方法	審査の上決定
単位の取扱い	派遣先で履修した授業科目について修得した単位の取扱いは，日本大学学則の定めるところによる
給付額	180 万円を限度として，派遣時に給付する
留学中の授業料	留学中の授業料の取扱いは別途定める
派遣奨学生の義務	①派遣奨学生は大学の派遣目的に応え，所期の成果を上げるよう努めなければならない ②派遣先での研究等の成果を報告書にまとめ，帰国後２か月以内に研究科長を経て，学長に提出しなければならない

３　認定留学制度

日本大学は，スタディー・アブロード・ファウンデーション（SAF）と提携し，同団体の持つネットワークを活用した中長期での欧米圏の大学への認定留学制度を設けています。
SAF が主催する 4 か月以上のプログラムに参加する場合は，「認定留学制度」を利用することで留学期間を修業年数に算入することができます。
「認定留学」として研究科から認められた場合，留学先大学等で取得した単位の認定及び留学期間中の学費は，日本大学の交換留学と同様に扱われます。なお，本プログラムによる留学費用は全て自費になります。

４　その他の海外留学

大学に対して募集があったものについては，その都度ポータルサイトにてお知らせします。